

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 24 日現在

機関番号：25406

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23720113

研究課題名(和文) ポストコロニアル台湾の日本語表象 黄霊芝文学を中心に

研究課題名(英文) Japanese representation of post colonial Taiwan

研究代表者

下岡 友加 (Shimooka, Yuka)

県立広島大学・人間文化学部・准教授

研究者番号：30548813

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,200,000円、(間接経費) 660,000円

研究成果の概要(和文)：「日本文学」という枠組みを越えた「日本語文学」という観点から、台湾の日本語作家・黄霊芝の文学について次の二点を明らかにした。1、黄霊芝の各小説のテーマとそれを支える具体的な方法について明らかにした。2、黄霊芝の肉声を記録し、彼の価値観や日本語創作の理由・経緯を明らかにした。また、『戦後台湾の日本語文学 黄霊芝小説選』(溪水社、2012)を編集し、彼の日本語小説9編と書き下ろしの評論、さらに年譜と解説を加えて、黄霊芝研究の基礎的資料を提供した。

研究成果の概要(英文)：I have studied about Taiwanese writer Kou Reishi from a point of view "The literature written by Japanese" beyond the frame "Japanese literature". I clarified the theme and method of each Kou Reishi's novel. I interviewed to Kou Reishi, and recorded his voice, his sense of values. In addition, I edited "selection of postwar Taiwanese literature written by Japanese". I provided the fundamental document of Kou Reishi's study.

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：日本文学

キーワード：日本語文学 台湾文学 ポストコロニアリズム 台湾史

1. 研究開始当初の背景

黄霊芝（一九二八 - 、本名：黄天驥）は台南市に生まれた作家、彫刻家である。日本統治下の台湾で十七歳まで日本語教育を受けた彼はこれまでに俳句、短歌、小説、随筆、評論、童話など幅広いジャンルに渡る日本語作品を書きあげてきた。編著に『台北俳句集』全三六集（一九七一～二〇〇九）が、単著に『黄霊芝作品集』全二一巻（一九七一～二〇〇八）があり、創立当初（一九七一）から現在まで台北俳句会主宰をつとめている。

黄霊芝は二〇〇四年、日本で出版された『台湾俳句歳時記』（言叢社、二〇〇三・四）により、第三回正岡子規国際俳句賞を受賞し、二〇〇六年には「日本文化紹介に寄与した」として旭日小綬章を授与された。日本語のみならず、中国語、フランス語での創作も行い、一九七〇年、日文を中文に書き直した小説「蟹」で第一回呉濁流文学賞を受賞。二〇〇六年には台湾文学作家牛津奨を受賞している。このように近年、特に高い評価を受ける黄であるが、彼の作品集は部数の限られた非売品（自費出版）ということもあり、華々しい受賞歴に比してその創作活動の内実は、十分に検討されていないのが実情であった。

台湾では、戦前は日本語が強制され（一九三七年、中文使用禁止）、戦後は一転して中国語使用が義務づけられた（一九四六年、日文使用禁止）。しかし、黄霊芝は国民政府の圧政下では命の危険さえ伴う日本語による創作をあえて選択した。それは政治や国が変わる度に言語を奪われる、被植民者の立場からの、そして言語を創作の道具とする作家としての命がけの異議申し立てであった。自国に多くの読者は期待できない、発表の場もないという創作者として最大のデメリットと引き換えに、一九五〇年代から今日まで黄霊芝は日本語による創作を継続してきた。

従来の「日本文学」は、過去の植民地統治によって生まれた黄霊芝のような作家の存在

をとりあげることなく、いわば自閉している。戦後台湾で日本語を使用して創作し続ける黄霊芝の文学行為を追究することは、「『日本 = 日本人 = 日本語 = 日本文学』という国家・民族・言語・文化を一体のものとして捉える等式の下に作り上げられ」（小森陽一『ゆらぎの日本文学』（日本放送出版協会、一九九八・九））てきた、「日本文学」という制度そのものを根本から揺さぶり、問い直す視座を我々に与えるものと考え。

2. 研究の目的

「日本文学」という枠組みを越えた「日本語文学」という観点から、台湾（中華民国）の日本語作家・黄霊芝の文学の内実を明らかにすることを目的とする。日本語使用が禁止された戦後の台湾で、あえて日本語で創作を行ってきた黄霊芝の文学行為を追究することで、帝国 日本が植民地に残した負の遺産と、日本 = 日本人 = 日本語 = 日本文化という了解の上に成り立ってきた「日本文学」という制度を外から再検討する視座を得る。あわせて、世界のポストコロニアル文学状況を広く考察するための一つの契機とする。

3. 研究の方法

第一に、黄霊芝文学のテーマとそれを支える方法を小説を中心とした作品分析から明らかにする。第二に、黄霊芝本人の発言を記録し、黄自身の許可を得た上で、公にする。第三に、ポストコロニアル文学の研究成果と接続することで、黄霊芝の行為を世界の文学状況のなかに位置づけ、評価する。最終的に黄霊芝に関する書物刊行に向けての論の構築までを本研究の到達点とする。

研究代表者は黄霊芝が主宰する台北俳句会に可能な限りで参加し、黄霊芝との交流を深め、インタビューをより円滑に行うことにつとめる。さらに、黄霊芝の知人、親類、友人からも話を伺い、得られた情報の客観化をはかる。

4. 研究成果

本研究の成果として、主に下記の三点があげられる。

(1) 黄霊芝の各小説のテーマとそれを支える具体的な方法、並びに他作家との比較のなかで顕著となる黄霊芝文学の特質について明らかにした。

(2) 黄霊芝の肉声を記録し、彼の価値観や創作環境、日本語選択の理由や経緯を明らかにした。

(3) 『戦後台湾の日本語文学 黄霊芝小説選』(溪水社、2012)を編集し、彼の日本語小説9編と書き下ろしの評論、さらに年譜と解説を加えて、黄霊芝研究の基礎的資料を提供した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 5件)

下岡友加「戦後台湾の日本語作家の声 黄霊芝氏インタビュー(1)」『県立広島大学人間文化学部紀要』2012年2月、第7号:183-194頁 査読無

下岡友加「一九五一年の台湾表象 黄霊芝の日本語小説「輿論」」『近代文学試論』2012年12月、第50号:107-116頁 査読有

下岡友加「戦後台湾の日本語作家の声 黄霊芝氏インタビュー(2)」『県立広島大学人間文化学部紀要』2013年2月、第8号:149-162頁 査読無

下岡友加「傀儡師とベテニ師 芥川龍之介と黄霊芝」『台湾日本語文学報』2013年6月、第33集:83-101頁 査読有

下岡友加「戦後台湾の日本語小説・黄霊芝「仙桃の花」の表現」『県立広島大学人間文化学部紀要』2014年3月、第9号:133-146頁 査読無

〔学会発表〕(計 6件)

下岡友加「黄霊芝の日本語小説「輿論」考」日本台湾学会(於早稲田大学)2011年5月29日

下岡友加「黄霊芝の日本語小説「仙桃の花」の方法」日本台湾学会関西支部研究大会(於関西大学)2012年1月28日

下岡友加「芥川龍之介と黄霊芝」台湾日本語文学会例会(於台湾・大葉大学)2012年4月21日

下岡友加「黄霊芝の日本語文芸並びにその周辺」日本台湾学会台北定例研究会(於台湾・台北教育大学)2012年9月8日

下岡友加「黄霊芝「輿論」考」東呉大学日本語文学系読書会(於台湾・東呉大学)2012年9月12日

下岡友加「呉濁流と黄霊芝、創作方法の比較考察」日本台湾学会(於広島大学)2013年5月26日

〔図書〕(計 1件)

黄霊芝著・下岡友加編『戦後台湾の日本語文学 黄霊芝小説選』溪水社 2012年6月:全278頁

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕

コラム 下岡友加「戦後台湾の日本語文芸」『中国新聞』朝刊(文化面)2013年5月23、

24、25、28、29、30、31日、6月1日
(計8回)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

下岡友加 (SHIMOOKA, yuka)
県立広島大学・人間文化学部・准教授
研究者番号：30548813

(2) 研究分担者

なし ()

研究者番号：

(3) 連携研究者

なし ()

研究者番号：